

災害に対するご家庭での備え

——これだけは準備しておきましょう——

雪害の経緯

平成26年12月5日、未明から降り出した雪は、池田町佐野から井川町腕山を結ぶ地域を中心に局地的に積もり、山間部では50cmを超える積雪となりました。今回の雪質は、水分量が多く樹木に着雪し、その重みで多数の倒木が発生。電線を切断したり道路を塞いだりしたため、いたる所で停電となり通行ができなくなりました。

このことにより、除雪作業も思うように進まず山間部の広範囲で集落が孤立状態になりました。大雪から5日目の12月10日、市道の除雪、倒木の除去により全ての孤立が解消しました。

い生活を余儀なくされた状況で、忍耐強く頑張つて生活を送られ、復旧作業に向けてのご理解とご協力をいただきありがとうございます。長期間に渡る孤立や停電の中で人的被害がなかったことは、皆さまの日頃の備えや地域での協力（自助・共助）の賜物と考えます。これを教訓に、日頃の備えの重要さを今まで以上に啓発していきたいと考えています。

関係者の皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。

十分ですか？

食料・飲料などの備蓄

電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備えて、普段から飲料水や非常食などを備蓄しておきましょう。

【食料・飲料・生活必需品など備蓄の例】

- 人数分用意しましょう
- 飲料水 3日分（1人1日3リットルが目安）
- 非常食 3日分の食料として、ご飯（アルファ米など）、ビスケット、板チョコ、乾パンなど
- トイレレットペーパー、ティッシュ



シユペーパー・マッチ、ろうそく・カセットコンロ・停電時でも使用できるストーブなど

※非常に広い地域に甚大な被害が及ぶ可能性のある南海トラフ巨大地震では、「1週間分以上」の備蓄が望ましいとの指摘もあります。
※飲料水とは別に、トイレに水を流したりするための生活用水も必要です。日頃から、水道水を入れたポリタンクを用意する、お風呂の水をいつも張っておくなどの備えをしておきましょう。



決まっていますか？

ご家族同士の安否確認方法

別々の場所にいるときに災害が発生した場合でもお互いの安否を確認できるよう、日頃から安否確認の方法や集合場所などを、事前に話し合っておきましょう。

災害時には、携帯電話の回線がつかなくなり、連絡がとれない場合もあります。その際には、次のサービスを利用しましょう。

□ 災害用伝言ダイヤル

「1711」をダイヤルし、利用ガイダンスに従って、伝言の録音・再生を行ってください。提供の開始については、状況に応じてNTTが設定し、テレビ・ラジオ・インターネットなどを通じて皆さまにお知らせします。

体験利用日▽毎月1日、15日0時から24時

【お問い合わせ先】

三好市役所危機管理課
電話 72・7625

消防団出初式で防火の誓い新たに

三好市消防団出初式が1月11日、池田総合体育館で開催され、市内54分団820人が参加しました。式典では、黒川征一市長が「雪害時の過酷な状況の中、安否確認や避難誘導、障壁となる大雪の除雪や倒木の除去作業による生活道の復旧など、数々の活動にご尽力いただきお礼を申し上げます。消防団の皆さまの活動がより強固に、より安全に行えるよう消防団装備の充実を図ってまいります」とあいさつし、黒川吉則連合消防団長が「地域住民の生命を守るため、迅速かつ的確に対応できるよう日頃から緊張感を持って任務にあたってほしい」などと訓示。その後、県知事表彰をはじめ、県消防協会長表彰や消防団長表彰などが行われ、功労者に賞状が贈られました。式典の最後には万歳と火の用心を三唱し、消防団員らは地域の防火防災活動への誓いを新たにしました。

また、池田町消防団第1分団が諏訪公園（池田町ウエノ）で、約110年の伝統を持つという「たる回し」を披露。防火ずきんと法被に身を包んだ団員6人が3人ずつ二手に分かれて同時に放水すると、縄で縛った2つのたるが豪快に回りながら立ち上がりました。華麗なたる回しの技に見物客から盛んな歓声と拍手が送られました。





倒木処理前

倒木処理後

平成 26 年 12 月の大雪による 倒木の取り扱いについて (お知らせ)

平成 26 年 12 月 5 日から 6 日の降雪により発生した多数の倒木により、三好市が管理する道路などの通行止めが発生しました。

工務課にお願いいたします。

市では、道路法に基づき、道路機能の回復のため緊急的な措置として道路管理上必要な倒木の処理（道路管理上必要と認められた範囲の倒木の伐採および運搬）を実施いたしました。

□ 河川の倒木について

その際、道路の通行確保・安否確認・孤立地区解消に緊急を要したため、所有者の調査、確認、交渉を行わずに倒木を処理し、現在は仮置きしてあります。この、仮置きしている倒木の今後の取り扱いについて、所有者の皆さまにお知らせいたします。

市の管理する河川、水路に機能上の障害を与える恐れのある倒木を見かけましたら、三好市役所建設部管理課または工務課までご連絡ください。処理方法について協議いたします。

□ 県道および県管理河川に関わる倒木について

市と同様の処理を進めていきます。県道、河川に関わることは、西部総合県民局県土整備部（三好庁舎）に問い合わせてください。

市と同様の処理を進めていきます。県道、河川に関わることは、西部総合県民局県土整備部（三好庁舎）に問い合わせてください。

□ 仮置きしている倒木について

【倒木の有効活用事例】

運搬した倒木などについては、平成 27 年 4 月末日まで保管を致します。その後三好市において、処分を行いたいと考えておりますが、所有者の方で「三好市において処分することに異議のない方」または「保管期限までに連絡がない方」が所有している倒木については、三好市において有効的な活用を検討し適切に処分いたします。この場合、所有者の方には経費の請求は致しません。

薪に加工し、市内温泉施設などで燃料として活用したり、チップに加工し、農地などの保全や肥料などに施用したりするなど活用方法を検討しています。

【お問い合わせ先】

三好市役所 建設部管理課
電話 72・7681
三好市役所 建設部工務課
電話 72・7623
西部総合県民局県土整備部（三好庁舎）
予防保全管理担当（道路）
電話 76・0636
河川担当（河川）
電話 76・0627

三好市役所 建設部管理課
電話 72・7681
三好市役所 建設部工務課
電話 72・7623
西部総合県民局県土整備部（三好庁舎）
予防保全管理担当（道路）
電話 76・0636
河川担当（河川）
電話 76・0627

「活用ください」

「ビニールハウス」の雪害防止対策

積雪に対する「ビニールハウス」の強度を高めるための対策

□ 「中柱」の設置による補強

パイプや木材、竹などを「中柱」として 3〜4m 間隔に設置し、上からの重みにたえるよう補強を行います。「中柱」の土台には、板やブロックなどを敷き、土中への沈み込みをなくします。竹を「中柱」として使用する場合には、直径 10〜12cm のものを用いましょう。



積雪時の作業は、いろいろと危険を伴いますので、安全性を十分確保するとともに、あらかじめ気象情報を活用して、事前に対策を行っておくことが重要になります。想定外の大雪により、ハウスが倒壊する危険がある場合には、絶対に施設内に入らないようにしましょう。また、災害に備え、「園芸施設共済」には、必ず加入しておきましょう。



8〜10 番線（3mm 程度）の針金を用い、2m 間隔に張りましょう。

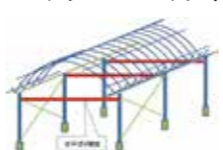
「できるだけ雪が屋根から落ちるよう」「被覆資材のたるみをなくす」

降雪前に、被覆資材が「びん」と張れているか確認し、たるみがある場合には、「ビニベトス」「リング」や「マイカ線」を締め直しておきましょう。

□ 「水平ばり」の設置による補強

ビニールハウスの内側にパイプ、木材竹、ワイヤー、番線を用いて「水平ばり」を設置し、ハウスの外側方へへたがるのを防止し、耐雪性を高めましょう。番線を利用する場合には、太さ

怪まつり」といった特色あるイベントが数多く開かれており、徳島県内でもナンバーワンだと思います。全国市長会の専門部会などにも参加して、国への提言や PR を行っています。



【お問い合わせ先】
三好市役所 農業振興課
電話 72・7617
三好農業支援センター
電話 76・0654

のことはないでしょうか。

丸浦会頭 今後は意見交換を重ねながら、官と民が方向性を合わせてお互いを補完し合い、具体性のある話を継続していただけたらと思います。知恵を出し合ってください。今日はありがとうございました。

市長 はい。こちらこそありがとうございました。

当日は、同会議所の総務・企画委員会などの皆さまから、市の PR 強化・市プロジェクト会議との連携・先進自治体の研究推進・ふるさと納税制度の拡充・地元出身人材の活用についてなど貴重なご提言をいただきました。

（注）U・I・J ターンとは、都市部から地方へ移住する現象の総称。U ターンは出身地に、J ターンは出身地の近くの地方に、I ターンは出身地以外の地方へ移住すること。

【お問い合わせ先】
三好市役所秘書広報課
電話 72・7646



官民協働のまちづくりへ

市長 人口が増えてうまくいっている自治体は、職員が地域に精通し、住民との対話が上手です。また、石破地方創生活当大臣は、産官学金労（産業界・行政・学校・金融機関・労働団体）や住民が主体的にまちづくりに参画することが重要と語っています。

丸浦会頭 一番いけないのは行政まかせです。官と民が情報を共有し、一緒に政策を検証し改善点を提案するなど、時にぶつかりながら双方向性になるような取り組みをしていきたいと思っています。

市長 歴史的に見ても今回の地方創生は今やらねばいけないと強く感じています。やるしかない。官民挙げてはまさにこ

も出始めていると思います。市民が希望を持てる機運が大事であり、地方創生とは地域の誇りの再生とも言えます。

市長 大歩危など、にし阿波観光圏が国内外から注目されています。地域で使えるプレミアム商品券といった官民一体であれば大きく前進する取り組みもあれば、ゆつくり進むべき取り組みもあります。限られた財源の中で、必要などころに知恵と予算を投入して果敢にチャレンジしていきます。さらに、田舎暮らしや U・I・J ターン（注）支援、健康寿命を延ばし、誰もが住み慣れた場所で安心して健康に暮らせる「健康」づくり条例の制定などを進めたいと考えています。子育て世代や高齢者が暮らしやすい住環境の整備もこれからの課題です。

丸浦会頭 三好市ファンをつくれれば移住者や交流人口の増加につながると思います。「こんなによりい制度や資源が三好市にはある」と自信を持って言えるような取り組みが必要で

市長 市内には「四国酒まつり」や「ツールドにし阿波」、「妖

数年前で「キラリ」と光る成果

けで効果が出る余地は各方面に存在しており、市内にはここ

「元気で働ける」「子育てがしやすい」「生きがいを見いだせる」ことの 4 つに整理すること

ができます。ちよつとした仕掛けで効果が出る余地は各方面に存在しており、市内にはここ

数年前で「キラリ」と光る成果

けで効果が出る余地は各方面に存在しており、市内にはここ

数年前で「キラリ」と光る成果

対話集会のテーマは「人口減少社会を克服し希望ある地方創生へ」。少子高齢化に伴う人口減少や地域経済の疲弊などの課題を克服するため、将来のまちづくりの方向性について話し合いました。丸浦会頭と黒川市長の対話の一部を要約して掲載します。

市長との対話集會



キラリと光る「そのの郷」創生に向けて

地方創生は地域の誇りの再生

市長 国立社会保障・人口問題研究所は 25 年後の 2040 年の三好市人口を約 1 万 3700 人と推計し、さらに三好市を含む 896 の市町村に消滅の可能性があると報告もあります。これを受けて、市職員による人口減少・少子高齢化対策プロジェクト会議を設けました。今後は市内のあらゆる団体の皆さんと意見交換しながら実態を共有し、地方創生に取り組んでいきたいと考えています。

丸浦会頭 地方創生はやはり人口減少対策に焦点を当てざるを得ません。人口減少に歯止めをかけるためには、高齢者に元気で働いてもらうこと。若い世代に次世代を担う子どもを増やしてもらうこと。さらに定住・移住促進や交流人口の増加などがあり、まちづくりのキーワードを「すみやすい」「元気で働ける」「子育てがしやすい」「生きがいを見いだせる」ことの 4 つに整理すること

ができます。ちよつとした仕掛けで効果が出る余地は各方面に存在しており、市内にはここ

数年前で「キラリ」と光る成果

けで効果が出る余地は各方面に存在しており、市内にはここ

数年前で「キラリ」と光る成果

けで効果が出る余地は各方面に存在しており、市内にはここ

数年前で「キラリ」と光る成果

けで効果が出る余地は各方面に存在しており、市内にはここ

数年前で「キラリ」と光る成果

けで効果が出る余地は各方面に存在しており、市内にはここ

数年前で「キラリ」と光る成果

けで効果が出る余地は各方面に存在しており、市内にはここ

数年前で「キラリ」と光る成果

けで効果が出る余地は各方面に存在しており、市内にはここ

数年前で「キラリ」と光る成果

けで効果が出る余地は各方面に存在しており、市内にはここ

数年前で「キラリ」と光る成果

けで効果が出る余地は各方面に存在しており、市内にはここ

数年前で「キラリ」と光る成果

けで効果が出る余地は各方面に存在しており、市内にはここ

数年前で「キラリ」と光る成果

阿波池田商工会議所
会頭 丸浦世造 さん
商工業の改善発達、社会福祉の増進のため公益的な法人として、1951 年設立。